

Culture★Fes

最新&最強レビューで
オーガナイズ!

Illustration by Yutaka Nakane

カルチャー★フェス 2015



Interview



黄昏を迎えた 高度消費社会での 幸せとは何か!?

取材文／北村土龍

田中康夫氏のデビュー作「なんとなく、クリスタル」が話題になったのは80年代。都会に住む若者たちの流行や風俗を描いたこの小説は大ブームを巻き起こし、登場人物のような生活を送る若者たちは「クリスタル族」とも呼ばれた。そして33年の時を経て、再び田中康夫氏が続編「33年後のなんとなく、クリスタル」を上梓。「その後のパブル景気を取り戻した」と言われる主人公たちが経験した、時代の変化とは……。

したが、この三十年間。いわゆる「IT」も81年にIBMがPCを、アップルが84年にMacを発売したものの、一般化するのにはWindows 95以降でしよ。携帯電話がお弁当箱サイズで登場したのも87年。急速に普及し始めたのは95年の阪神・淡路大震災が契機でしたから。

他人の書き込みチェックに多大な時間を割いてしまう毎日です。技術の進歩で幸せになったはずが、逆に人間の自由を奪っている。田中「IT社会」は当初、私たちが主体性を持って情報を取捨選択する自由を得るための変化でした。なのに、い



撮影／佐藤 暲

田中康夫

作家。1956年生まれ。'80年、一橋大学在学中に書いた小説「なんとなく、クリスタル」で文藝賞を受賞。100万部を超えるベストセラーに。その後、長野県知事、参議院議員、衆議院議員などを歴任 <http://www.nippon-dream.com/>

「前作を執筆された当時は、日本経済も右肩上がりの時期でした。田中 90年前後のバブル期を体験しているかどうかで区別したがる人がいますが、世を超えて私たちが誰かが、高度消費社会の中に組み込まれているのです。好みのラーメン屋の行列に並ぶのも、小綺麗なイタリアンに出掛けるのも、ささやかだけど確かな「ハレ」の瞬間を求めているのですから。「数値に換算できないもの価値ゼロ」という風潮が、最近の金融資本主義でしょ。でも、自分が牛耳っていると思

い込んでいる人も結局は歯車の一つで、疲弊し消費されていく運命だもの。ならば、金銭には換算しにくい価値、友人だったり家族や地域だったり、そして文化や伝統といった守り育むべき空間の中で、どのように人間らしく生きるか。それが大きなテーマです。——そのために必要なものは? 田中「温性」だと思いますね。日本語は深く、例えば「市場」という漢字には「いちば」と「じじょう」という2つの読み方がある。一人暮らしのおばあちゃんが買物に来たら、「この魚の切り身、小ぶりだから30円までとく

よ」というのが「いちば」。人間の体温が感じられる。一方、損益分岐という数字だけで判断するのが「じじょう」。でも、データを打ち間違えたり、バグが生じているかもしれない。——物語では由利が自分の仕事に「人間の心」が足りないのではと悩み、乗り越えていく姿が描かれています。田中 料理人が美しい料理を作ること、素敵な文章を書くこともボランティアに励むことも、他人からすれば単なる自己満足だと思われるかもしれない。でもね、「できることを、できる時に、できる所で、できる人ができる限

り行う」。それでいいのだと思います。微力だけど無力じゃない」と一人ひとりが信じて前に進む意欲です。——前作は後に「日本経済の黄昏」を予見した作品と評されました。今回も物語の後半、「黄昏」という表現が繰り返して出てきます。田中 夕焼けは、実は朝焼けの空と同じ赤みを帯びています。向こうの人が誰かわからない薄暗い時分なので、大昔はどちらも「彼は誰時」と呼んでいたのです。とするなら、超少子・超高齢な今の日本を「夕暮れ」ではなく「夜明け前」だと考えれば、私たちは再び

日の出を迎えることができる。——この作品の読者に、何を読み取ってほしいと思いますか? 田中 ダイノジの大谷ノブ彦さんが「幸せになるのではなく、幸せに気づく心を獲得するって、こういうことじゃない」と感想をツイートしてくれました。幸せをどうつかつかつかというハウツーじゃないんだと。それぞれ置かれた境遇は違っても、主人公たちの姿を通して、ささやかだけど身近にある確かさな自分自身が気づくことこそ大事なんだ。そうした勇気と希望を抱いてもらえたら嬉しいですね。

日本経済が右肩上がりだった '80年代の文化・世相を知る三選

1980 アイコ十六歳
堀田あけみ著 河出文庫 616円
弓道部に所属する高校生、アイコの学園生活を描いた青春小説。漫才ブームや金八先生、当時のヒット曲など、'80年代の高校生が夢中になったものが数多く登場する。著者は執筆当時17歳、最年少で文藝賞を受賞

ポケットは80年代がいっぱい
香山リカ著 バジリコ 1620円
1980年代、サブカルチャー・物興期の渋谷。伝説の雑誌「HEAVEN」の編集に携わっていた著者による自伝的80年代論。それまでとは違った価値観を持ち、「新人類」と呼ばれた彼らが体験した最先端の文化とは?

日経エンタテインメント!80's名作Special
日経エンタテインメント編 日経BP社 1008円
トレンドドラマ、おニャン子クラブ、イカ天、少年ジャンプ、EPICソニーetc.'80年代に流行した音楽、テレビ番組、映画、本、ゲームなどを一挙紹介。斎藤由貴、荻野目洋子、錦織一清らのインタビューも収録

